

早期支援・普及啓発の焦点

- 精神疾患の初回発症は10代～20代前半に集中。
- 統合失調症患者の多くが10代早期からclinical & subclinicalな精神病理を抱えている。
- 早期支援が最も必要な若者層が最も支援を求めたがらない。(Rickwood et al., 2007)
- 低年齢群ほど自らの精神障害を認識しにくい。(Logan et al., 2001)

思春期児童や若者およびその周辺の支援者を
対象とした精神保健啓発が特に重要！

精神病早期支援宣言 (WHO & IEPA, 2004)

- 15歳の生徒全員が精神病についての教育を受けるようにする。
- 若者に関わる教育関係者が精神病早期発見のためのトレーニング研修を受講するようにする。
- 内科や小児科、行政関係者など思春期・青年期の若者に関わるすべての人々が早期の精神病を確実に発見できるようにする。
- 相談・受診3回以内に最良の支援機関につながるようにする。
- 未治療期間を3ヵ月以内にする。
- 早期発見により強制的治療を25%以内にする。
- 発病後2年以内の自殺率を1%以内にする。
- 治療開始後2年経過した時点で、90%の患者が就労や就学などに関して満足のいく状態を目指す。

等々

精神保健普及啓発は 諸外国共通の課題

- 若者向け啓発・教育キャンペーン
(例・メルボルン, Compass Project)
- 保護者や学校関係者を対象とした初期支援 トレー
ニング
(例・Mental Health First Aid Training)
- 包括的学校精神保健活動
(例・オーストラリア, Mind Matters Project)

10代の若者に対する精神保健啓発

学校ベースの精神保健啓発

包括的学校精神保健アプローチ

働きかけの対象

介入レベル

学校全体

心理社会的な能力と健康の促進に役立つ環境の整備

学校環境全体

全生徒・全教員

精神保健教育
(啓発)

授業の一部

20～30%の生徒

心理社会的
介入

追加援助が必要な生徒

3～12%の生徒

専門的治療

専門的な精神保健介入
が必要な生徒

WHO, 1994

豪国・学校精神保健プロジェクト

Mind Matters

(2000~)



予防・早期介入を目的とした 学校精神保健プロジェクト

若者の精神的健康を増進し、予防や早期介入の促進のために

- ① 学校環境の整備・改善
- ② 精神的危機を乗り越えるためのスキル・資源・精神疾患に関する正しい情報の提供
- ③ すでに精神的不調をきたしている若者に対し、効果的なサポートができるように支援する体制づくり